



「こんな事を……んっ、したって、何も、変わりません……!!
ましてや、貴方のブレイドになど絶対に……!」

んっ!!

んっ!!

んっ!!



「そう言うなって。あんたを捕まえてまだ三日、時間はたっぷりあるんだからよ」

「だからって、毎日こんな、無理やり犯して……!!」

ズ
ン
ッ!!

ズ
ン
ッ!!

ズ
ン
ッ!!



「でも、最初よりもスムーズになってきてるじゃん。俺たち相性バツグン。ホムラちゃんも実は感じてるんだろ?」

「こんなの、全然気持ちよくなんて、ありません!」

ズ
ズ
!!!

ズ
ズ
!!!

ズ
ズ
!!!



「言っねえ。でも、毎日パコパコしてるのだって、

ちやあんと理由があるんだぜ？多分そろそろだと思っわけよ」

「そろそろ？……ひんっ！？な、何！？」

（突然感度が上がったみたいだ。声、抑えられない……！）

グユピ

グユピ

グユピ



「ベストタイミング。実はあんたを捕まえた時に、こっさり仕掛けを仕込んでおいたわけよ。
あのじいさんが言うにはブレイドの契約を無理やり上書きするとかなんとか言ってたっけ」

「そんな事が！？くうっ……んああっ、今すぐ、やめて………くださーい！」

グユピ

グユピ

グユピ



「大丈夫大丈夫、仕掛けが進行するには、両者の同調があった時だけだから。早い話が、申出した時あんたがイかなきゃいいのさ」

（絶頂？レックスとの繋がりが消えるなんて、絶対嫌……！！）
「ってなわけで、愛しの彼の元へ無事で帰りたかったら、頑張って耐えてねってわけ。ま、無理な話だけど」



「絶対、私は……レックスの元に、帰り……んうつつ、動か、ないでえっ!」

「悪いけど俺、もうホムラちゃんのキモチいい所わかつちやっってるから。ほら、「一回目の長蝕アクメ、イって見よ!」



(やだ、イキたくないっ……だめ、気持ちいいの昇ってきて……レックス、助け……)

ビュルルル!!

「あひびろー!? ああひ、とんぽろろろろー!!」

「あ、あ、あ、あ……あ、あ、あ、あ……」

ハアハア

ハアハア

アアアア

「はいアウトー。お、印もクツキリ出てきたな。後何回耐えられるかな？
ホムラちゃんが俺のモノにもなるまで秒読みって感じ。先が楽しみだ」



















